

委員会報告

教化委員会

七五三の集い

去る平成二十八年十一月十六日、御霊神社（小栗栖）元徳宮司に於いて教化委員会主催「七五三の集い」が開催された。

この事業は各児童養護施設で生活する子供達を招待し、七五三のお参りをして頂くと共に参集した他施設の子供達と共に楽しい時間を過ごして頂き良き思い出を作ってもらう事が目的である。

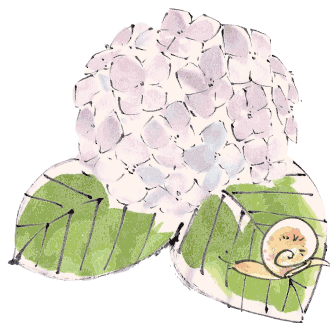
当日は市内にある四カ所の施設から計十六名の子供達が集まった。御本殿での七五三の御祈禱に始まり、櫻井会長挨拶、田中渉外委員長によるジャグリング披露の後、記念撮影が行われた。



その後、参集所において団子が振る舞われた。あんな・きな粉・みたらしのタレを好きなだけつけ頬張る子供達の顔には笑顔が広がっていた。また、守分会員によるバルーンアートの実演が行われた。音楽に合わせて様々な形のバルーンを作る姿に歓声が起った。さらに、好きなものを作って貰うと、喜んで遊ぶ子供達の姿があった。

子供達に楽しんでもらいながら記憶にも残る催しが出来ないかと委員会でも話し合い、見て、手に触れて楽しさを感じ、思い出に残るようにと考案した。

真剣にお参りする姿と団子を頬張る姿、そしてバルーンアートを手に笑顔で走り回る姿から、短い時間ではあったが、子供達にとって楽しい一時であり、人生儀礼のひとつに触れ、神社と子供達との距離を縮める事の出来た一日であったと思う。子供達がこの記憶を大人になっても持ち続け、次の世代の子供達にも繋いで欲しいと願う。



（八坂神社 中村 隆人）

事業委員会

神青カレンダー



事業委員会では、株式会社秋江様、京都奉製株式会社様の御協賛により毎年恒例のカレンダーを作成致しました。平成二十九年版は、舞楽図をテーマに構成されており、その優雅なデザインは、社頭に掲示して頂ければ趣のある雰囲気醸し出してくれます。

平成二十八年十一月十一日、伏見稲荷大社参集殿に於いて事業委員会を中心に会員数名助勢のもとカレンダー発送作業を実施し、京都府内各神社に頒布致しました。

渉外委員会

ヤチマタ募金活動

平成二十九年一月二十五日、北野天満宮の境内をお借りして、恒例のヤチマタ募金活動を渉外委員会主催で開催致しました。当日の参加者は七名と多くはありませんでしたが、雪も時折降る中、参加会員は皆大きな声を出して、募金活動を行いました。この日は大変寒い日ではありましたが、初天神の日であり参拝者が多く来られてい

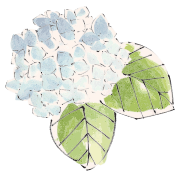


たので、会員の積極的な募金の呼びかけは参拝者にも届き、五三、九七二円の温かいお気持ちを頂くことができました。

二月三日には、節分祭で賑わう吉田神社の境内にて、午後四時より京都府神社庁主催ヤチマタ募金活動が開催されました。最初の参加会員は三名であり、少ない人数の中行っていました。午後六時以降は社務を終えた会員が大勢参加し、合計十四名で精力的な募金活動を行うことができました。短い時間ではありましたが、四八、九八二円の温かいお気持ちを頂くことができました。

今後京都府神道青年会では、交通安全推進運動であるヤチマタ募金活動を京都府神社庁と共催にて積極的な活動を継続していきますので、会員の皆様方のご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

(石清水八幡宮 田中 博志)



広報委員会

広報委員会主催研修会

「発達障害の世界へようこそ」

「発達障害とは」



平安神宮記念館ホールに於いて平成二十九年四月二十七日、広報委員会主催の研修会が、講師に茂木和美先生（イラストレーター・神奈川県在住）をお迎えし「発達障害の世界へようこそ」「発達障害とは」と題して参加会員二十一名の下、開催された。

研修会は、発達障害の基礎知識をレジュメに沿って、ご自身のご子息（発達障害・自閉症）との生活の様子、また発達障害児・者の映像（DVD）も交えながら詳しく説明（講話）がされ、会員は、普段の生活ではあまり耳にしない内容に熱心に耳を傾け、筆を走らせていた。

最後に茂木先生から「環境の変化に苦手な発達障害児・者にとり神社（神社境内）といういつの時代もさほど変わらない普遍的空間、また決まった日時・時間の祭礼（行事）が当事者にとつ



て心安らぐ時間・場所であり皆様には今日お話しさせて頂きました事を心に留めて頂きながらご奉仕して頂ければ幸いに思います。」と、締めくくられ研修会は納められた。

（大將軍八神社 生寫 紀之）

組織委員会

『洛声』第二一二号発行

組織委員会では会員の近況を報告する機関紙『洛声』一二二号を発行した。

この『洛声』を通して会員同士の情報共有、また親睦を図ると共に組織力も強化していきたい。

これからも、会員皆様の近況等を漏れ落つる事無く掲載していきたいと思しますので情報収集の御協力をこの場を借りてお願い申し上げます。



平成二十八年定例総会・懇親会



平成二十八年七月五日、京都ロイヤルホテル&スパ「翠峰の間」に於いて午後六時より平成二十八年定例総会が櫻井会長以下八十八名の会員参加の下、開催された。総会受付時には渉外委員会による「平成二十八年熊本地震に対する募金活動も行われ、多くの浄財を会員始め関係各位より頂戴する事が出来た。なお浄財は「神道青年九州地区協議会」に贈呈される。

定例総会は、松大路副会長による開

会の辞に始まり櫻井会長先導による神宮遙拝、続いて国歌斉唱、丸茂教化委員長先導による敬神生活の綱領唱和に続き物故者に対して黙祷が捧げられた。その後、櫻井会長による挨拶に続き議長選出では賀茂御祖神社の清水洋直会員が議長に選出され議事が進められた。今年度は例年の議事案件・報告に加えて創立六十五周年記念事業関係の事業報告、協議もなされ全ての議事案件・報告は異議無く会員により承認



された。

議事後、会員皆で会歌を合唱し心をひとつにした後、松大路副会長による閉会の辞により定例総会は滞りなく収められた。

定例総会に引き続き、京都府神社庁田中恒清庁長を始め京都府氏子青年連合会杉本寿一会長、OB会員、協賛業者各位にご臨席を賜り懇親会が開催された。

懇親会開会に先立ち「ヤチマタ基金

贈呈式」が執り行われ、櫻井会長より田中庁長に目録が渡された。その後、会長挨拶、来賓紹介と続き、来賓祝辞では田中庁長よりご祝辞を賜り、杉本会長に乾杯のご発声を賜り懇親会は進められた。

懇親会は、京都府神道青年会が推進している「3010運動」が実施され提供される料理を美味しく頂きながら途中催行される新OB会員紹介、新入会員紹介、清興により盛況の様子を見せていた。

閉会前には、稲川昌実先輩先導による万歳三唱を皆で奉唱し、田副会長による閉会の辞をもって懇親会は納められた。

＊3010運動

開会後約三十分間・閉会約十分前は自席着席にて歓談

(この記事は前号の未掲載分でした。今号に掲載します事お詫び申し上げます)





平成二十八年年度臨時総会



八坂神社常磐新殿に於いて平成二十八年年度京都府神道青年会臨時総会が平成二十九年一月三十日に会員五十六名出席の下、開催された。

松大路副会長による開会の辞により臨時総会は開会され、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き櫻井会長より挨拶がなされた。続いて議長の選出が行われ、護王神社の高田真之介君が指名を受け議長席に着いた。

議事では議案第一号として次期会長選出に関する件により向日神社の六人部是充君が、議案第二号として次期監事選出に関する件により八大神社の竹内政裕君と石清水八幡宮の櫻井宣人君の選出がそれぞれ上程された。第一号、第二号議案はそれぞれ会員により慎重に審議されたが両議案は異議無く承認された。議事後、出席会員により声高らかに会歌の合唱がなされ中田副会長による閉会の辞をもって臨時総会は閉会した。

(大將軍八神社 生鷲 紀之)

近畿地区報告

臨時総会並第二回連絡会



平成二十八年十二月六日、大阪市のホテル阪急インターナショナルに於いて、神道青年会近畿地区連絡協議会臨時総会並びに第二回連絡会が開催された。

まず、今期副会長に田中国男会員が補任され、次期会長に同じく田中国男会員、次期監事に上村宜道会員、友田昇会員が全会一致で選出された。続いて、中央報告、特別委員会報告等の各報告がなされ、閉会した。

なお、臨時総会並びに第二回連絡会に先立ち、研修会が行われ、株式会社金剛組専属宮大工の木内組の社長である木内繁男先生から『二四〇〇年の歴史が紡ぐ「匠の技」』と題してご講義を賜った。社寺を建築する前にその模型を作ると、部材の収まり方がわかる等、今後の神明奉仕にも繋がる講話に会員一同真剣な面持ちで耳を傾け時折、筆を走らせていた。

(鍛山神社 天岡 秀人)

第三回連絡会・地区研修会



住吉大社に於いて平成二十九年三月二日に神道青年近畿地区連絡協議会第三回連絡会が開催され近畿二府四県から八十一名(当会から十名)が参集した。

連絡会は、先ず神楽殿にて正式参拝が執り行われ、長谷川裕高会長が代表して玉串を奉奠され会員一同合わせて拝礼を行った。正式参拝後は高井道弘宮司様より住吉大社の由緒を拝聴し会員は住吉大社についてより理解を深

めていた。

その後、研修会として小出英嗣権禰宜様より御本殿、また境内社一社一社を参拝しながら丁寧な説明を賜った。

研修会後は、住吉大社吉祥殿にて連絡会が開催され次第の通りに田中国男副会長による開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱、瀨城二会員先導による敬神生活の綱領唱和、長谷川会長挨拶と進められ当



番府県挨拶では大阪府神道青年会友田昇会長が行った。次に座長に選出された友田大阪神青会長進行の下、中央報告、特別委員会報告、近畿地区事業委員会報告、各単体会報告が行われ、次第の終わりに「神道青年の歌」、「美はしき山河」を斉唱後、持田照久相談役先導により出席会員一同声高らかに「聖寿万歳」を奉唱し六人部副会長による閉会の辞を以って第三回連絡会は滞りなく閉会した。

引き続き同殿「明石の間」にて南坊城光興顧問、菅尾龍太参与、樹光治参与、石倉哲之参与とご臨席の下、懇親会が開催され、近畿地区会員はより一層の親睦を深めていた。宴も酣の頃、石倉哲之参与によるユーモア溢れる中締めにより懇親会は盛況の内に納められた。

そして翌三月三日には地区研修会が堺市の「さかい利昌の杜」及び南宗寺において開催された。



午前中は、二班に分かれて堺という町がどのようにして発展していったのか、堺で生まれた千利休と与謝野晶子という二人の偉人の人生や功績を「千利休茶の湯館」、「与謝野晶子記念館」を拝観しながら、「さかい利昌の杜」の職員の方にご説明頂きました。「千利休茶の湯館」では豊臣秀吉との関わりなどについて学び、「与謝野晶子記念館」は晶子の生家・和菓子商「駿河屋」の再現展示、代表作『みだれ髪』をはじめ、カラフルな色合いで美術品としても価値が高い著名な画家達による本の装幀が展示をされてお



作って頂いた物で、見た目も味も素晴らしい物であった。

午後からは「さかい利昌の杜」の開館の企画段階から携わっておられた伊住禮次朗先生に「三千家の誕生から現在まで」という題目で講演して頂いた。千利休という名は一般的にも有名であるため、茶の湯の世界をあまり知らない人でも「天下一之茶之湯者」としてその名は広まっているが、本名は利休宗易という名であり千利休と名乗っていたのは亡くなる前数年間だけの名であったことは大変驚きであった。その後は南宗寺という千利休が修行した寺院にて、建物を拝観させて頂いた。仏殿の天井に描かれたどこから見ても睨まれているように見える「八方睨みの龍」は、こちらに迫ってくるような迫力があつた。

今回の地区研修会を終えて、神明奉仕の中でも縁が深い茶の湯の世界を学ぶことが出来、大変貴重な経験をさせて頂いた。そしてこの

貴重な経験を奉務先でも生かせる様に勉勵に励みたいと思う。

(石清水八幡宮 吉田 靖)

御堂筋パレード

去る、平成二十九年一月二十七日に国旗掲揚推進事業である『一・二七御堂筋パレード』が開催された。

この事業は、一月二十七日の「国旗制定記念日」に、国民の祝祭日にどの家庭でも国旗が掲揚されるようお願い御堂筋をパレードして呼びかけるものであり、毎年一月二十七日に開催されている。

当日、午後二時三十分には大阪市中央区に鎮座する坐摩神社境内に神道青年会会員や各関係諸団体、一般参加者等が約二百名集合した。

先ずパレードに先立ち出発式が執り行なわれ、まず大阪府神道青年会友団



会長にあわせて坐摩神社を参拝し、参加者全員で国歌斉唱、次に日本会議大阪運営委員長である神道政治連盟大阪府本部長の衛藤様より主催者代表挨拶を戴いた。その後、小旗の振り方などの練習や諸注意連絡が行われた。

そして午後三時より大国旗をもった神道青年近畿地区連絡協議会会長の長谷川会長を先頭として、参加者一同が四列縦隊を組んで出発した。先導車の搭載のスピーカーから「一月二十七日は国旗制

定記念日です。祝祭日には日本の国旗、日の丸を揚げましょう」と流れ、そのアナウンスのもと、参加者一同は手に持つ日の丸の小旗を振り、力強く声高らかに「揚げましょう」と唱和した。道中においては日本会議大阪の方々や大阪府神道青年会の会員等が、日の丸の小旗や日の丸ステッカーを沿道の一般市民に配布して国旗掲揚をよびかけていた。本町から御堂筋を通り難波までの道を警察指示のもとで約一時間行進し午後四時頃難波に到着し解散となった。

今回は例年とは異なり、先頭の大国旗の捧持を神道青年会の各単位会代表と日本会議代表とが交代しながら務め、各々がこの大国旗を担う重みや責任を心身感じながらのパレードであった。

昨年引き続き参加させて戴いたが、今回初めて大国旗を捧持させて頂いた。このパレードで沿道を行き来する人々に国旗掲揚の推進アピールができ、熱い関心を得ることができたのではないかと感じた。

(向日神社 六人部 是充)

親睦ゴルフコンペ

去る平成二十九年三月二十九日、兵庫県神道青年会の担当により、神道青年近畿地区連絡協議会「親睦ゴルフコンペ」が兵庫県西宮市のよみうりカントリークラブに於いて開催され総勢五十八名、当会からは櫻井会長をはじめOB先輩、会員計五名が参加した。

当日は雲一つない絶好のゴルフ日和の中、開会式に引き続き、長谷川近畿地区会長と上村兵庫神青会長の始球式が行われ、午前九時三分より順次スタートしベテランから初心者まで名門コースでのプレーを終始楽しんだ。



プレー後にはクラブハウスで懇親会と表彰式が行われ、団体の優勝は地元兵庫県、二位は大阪府、三位は奈良県という結果で京都府は惜しくも入賞を逃した。

次年度は奈良県神道青年会担当で開催される。

(八大神社 竹内 政裕)

中央報告

中央研修会

去る三月二十三・二十四日の二日間にわたり、平成二十八年度神道青年全国協議会中央研修会が広島県のANAクラウンプラザホテル広島にて開催された。全国各地より約三百名の参加があり、京都からは五名が参加した。

今回の研修会では、『平和の希求〜進むべき未来への道筋〜』を主題に、第一講ではケント・ギルバート先生による「真の平和を実現するために」と題して、戦後にGHQが行なった占領政策についての講義があった。特にその政策の一つの憲法制定について、第九条を掲げる

第三講では、志賀賢治先生に「記憶の継承」と題して、スクリーンを通して平和記念資料館に展示してあるものの説明を受けた。映し出された物の中には、原爆により焼けた服、弁当箱、八時十五分に止まった腕時計などがあり、原爆に遭われた、多くの方々の悲惨さや状態を知ってもらいたいと話された。全講義を通して、大和ミュージアムや原爆資料館に展示されているものを

た理由を考えてもらうきっかけになればと講演いただいた。翌朝、平和記念公園に集合し、原爆死没者慰霊碑に黙祷を捧げ拝礼した。



ことにより、日本においては戦いのない平和な国になったように思えたが、日本を取り巻く状況は、必ずしも平穏であるとは言えず、周辺国の状況を見ると憲法改正をする必要があると論じられた。

第二講では、戸高一成先生に「戦後七十年と平和」と題して、大和ミュージアムに戦艦大和の模型が展示されている理由を話され、多くの一般の方に見てもらうことで、当時、この戦艦が作られ



見て、戦時中のことに思いを致し、日本の正しい歴史を学び、考えることが大切だと理解した。

また、共有した広島県の記憶を後世へと伝え、私達に何が出来るか、何をするべきかを考え続ける事で、真の平和維持が出来ると信じていた。

今回の開催地は、長崎県佐世保市に決まり、多くの会員が集まるよう願う。
(鉾山神社 天岡 秀人)

編集後記

この『山紫水明』一三三号を以て早いもので櫻井会長体制の下での発行は最後となりました。これまで四号を発行させて頂きましたが、発行に際し、尽力賜りました関係各位に今一度心より御礼申し上げます。

さて、今号は、清水寺貫主・森清範氏の講演録を始め六十五周年記念事業の記事を掲載しております。

事業に参加が叶わなかった方々、また参加して頂いた方々も今一度熟読して頂き今後のご奉仕の一助に、また京都府神道青年会の活動にご理解頂き、更なるご助力を賜りますれば幸いに思います。

次号からは、新体制の下での発行となりますが、より良き広報誌作製を目指しております。どうか今後皆様のご指導・協力をお願い申し上げます。げ筆（ペン）を次年度広報委員に託しこの辺りで失礼させて頂きます。感謝。

『山紫水明』第一三三三号

題字 頼新先生
編集 広報委員会
発行所 京都府神道青年会
発行日 平成二十九年六月三十日
印刷 株式会社ユニティー

